

復興に向かって前進する、元気あふれる情報発信紙

Hi.GO!!

さあ、行こう!!

熊本市復興だより

熊本市イメージキャラクター

「ひごまる」。熊本地震を受けて、新たなデザイン「ひごまる復興バージョン」が完成しました。手を前に大きく突き出したポーズは、前向きさと明日(未来)へ向かう姿を表しています。ひごまるとともに「がんばろう!くまもと」



作:村井健太郎氏



熊本市政局復興総室

検索

2018 vol.10



災害発生を想定した、さまざまな取り組み
つなげていこう! 私たちの経験を



私たちは、熊本地震でいろんなことを経験しました。その経験や過去の震災から学んだことを生かし、地域と教育機関、行政が連携。地域力を強化し、次代へつなぐ取り組みが加速しています。

防災

熊本地震後、校区防災連絡会、避難所運営委員会の設立を推進しています。

熊本地震の経験を踏まえて改定された市の地域防災計画。避難所での役割分担やルールなどを定めた避難所運営マニュアルを策定し、市内92校区4地区に、住民(自治会等)と施設管理者(学校等)、市職員による校区防災連絡会と避難所運営委員会を設置し、災害対応力の強化を図っています。

避難所の図面を使って避難所運営を考える熊本版「HUG」を体験

南区川尻校区では2017年9月、川尻校区防災連絡会が発足。同11月に、地域の自治会と近隣在住の市職員、指定緊急避難場所である熊本農業高校の職員で組織する、熊本農業高校避難所運営委員会が立ち上げられました。

昨年12月6日、熊本農業高校避難所運営委員会の主催で、地域の消防団、民生委員、自主防災クラブ、交通指導員などが集まり、机上訓練HUG(避難所運営ゲーム)を体験しました。ファシリテーターを務めたのは、防災士で同校区防災連絡会事務局の



机上訓練「HUG」の様子

岡裕二さん。震度5強の地震が発生したと想定し、熊本農業高校のフロア図面に、住民に見立てたカードを配置していきます。

「赤ちゃんを連れた4人家族が避難してきました」「足の不自由な老夫婦が避難してきました」「次は、ペットを連れた5人家族です」と、さまざまな被災者を想定しながら、どこに誘導すべきかを話し合い、避難所運営の方法をシミュレーションしていきます。

参加者からは「机上での誘導はうまくいったけれど、災害時であれば難しい面もあると思った」「的確な状況判断力に加え、本部と運営メンバーの連携が求められる」など、活発な意見が交わされていました。

「さまざまな境遇の人を、適切にしかも安全に誘導する方法を、日頃から訓練し、シミュレーションしておくことの大切さを痛感しました」と、熊本農業高校の森山大介校長。同運営委員会委員長の吉村勝幸さんも、「今日の訓練で運営委員会のメンバー一人一人が、自分たちの役割を認識できたと思う。今後も防災への意識を高めていく活動を続けていきたい」と話していました。



机上訓練後、災害時の避難所となる施設を実際に歩き、現場で運営方法を検討

ラジオ版「熊本市復興だより Hi.Go!!」熊本シティエフエム(FM79.1)で放送中 毎週土曜(午前9時半~)